

## 令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立星林高等学校 校長名： 宇野 健二

## 目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

「時・場・礼を大切にし、自ら学び、考え、行動できる」生徒を育てつつ、これまで以上に地域の信頼、期待に応えられる地域中核校としての魅力ある学校を目指す。

## 学校評価の公表方法

本校公式ホームページに掲載（3月）

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月22日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	一人一人の生徒に応じたより豊かで多種多様な自己実現のための進路指導の充実。	B	意識付けと振り返りによるより効果的な個別進路啓発 低学年指導、次年度0学期指導等の初期指導の充実 補習、スタディーサポート、模試分析等による正確で実効的な入試指導	学年進路アSEMBリー、進路講話、進路ホームルーム、面談等の計画的実施と充実 手帳、キャリアパスポートとしてのポートフォリオ等の定期的な有効活用指導と充実 ・特別補習、通常補習の質的向上 ・和歌山大をはじめ国公立大、私立大合格者実績の前年度比増。	B B A	しかるべき時期に、しかるべき内容で進路指導啓発が行えた。低学年からの精度の高い指導を徹底したい。 手帳の効果的活用については、課題を残す。キャリアパスポートのベースとして機能させていきたい。 総合型選抜、学校推薦型においては、きめ細かで粘り強い指導により、昨年以上の成果を収めることができた。	現職教育等をさらに充実させ進路指導の方向性について教職員全体での共通理解を深め、その質を高める工夫を凝らしていく。引き継いでいくべきノウハウを明確化していく。
2	学習意欲、学力向上に向け自律的学習者としての成長をサポートするためのICT活用と適切な教育課程の編成、探究活動を中心とした主体的な学びの実践。	B	効果的、効率的な学習支援のためのICT環境の最適な活用。 適正なクラス、学習集団規模による、手厚くきめ細かな学習指導 主体的、対話的で深い学びを実現するための探究的な活動の充実と深化	各授業におけるICT活用事例の共有と教員研修の実施 ・コース別、少人数クラス等での効果的な授業の実施と効果の検証 ・観点別評価を含む総合的評価の適切な実施 ・「総合的な探究の時間」の学習内容の深化 ・研究授業等を通じた「探究的」アプローチの検証と共有	A B B	ICT利活用に向けた情報発信やアンケートに基づく研修は係(ICT推進委員会)を中心に充実できた。 初年度となる観点別評価については、次年度に向け修正し、さらに精度を上げていく必要がある。 進路指導とのリンク、効率的な展開、研究授業の実施等に課題を残す。	より質の高い総合的な評価に向けて、各教科とも課題を明確にし、取り組む必要がある。「主体的な学び」の定着に向けた実効的な取り組みを進めていく。
3	国際交流科を中心とする国際教育の改善、充実、深化、地域中核校としてのより特色ある教育活動の構築。	B	より深い国際理解、国際交流のための校内・科内行事、イベント等のさらなる充実と質的向上 校外活動などの多様な学びの場への生徒参加支援 時代のニーズに対応しつつ、持続可能かつ魅力ある科であるための模索	・各種セミナー、留学生受け入れ、姉妹校交流、講話、講演、校内大会等の実施の工夫と改善。 ・英検等資格受験者への積極的な支援、受験者増。 ・アジアオセアニア等校外国際交流活動への参加人数増。 ・学校説明会やホームページを利用した魅力の積極的な発信 ・これからの国際交流科のあり方についての校内での熟議	A B B-	対面、オンラインとも、交流活動を徐々に実施でき、生徒にとって貴重な学びの機会となっている。 再開されはじめた校外の活動へは積極的に参加を促している。 あり方の熟議、積極的なPR等十分といえなかった。魅力を明確化していく必要がある。	本校の最大の特徴である国際交流、国際理解教育について、その今後の深化や発展に向けての検討、協議を充実させる。引き続き継続して取り組みたい。志願者実質1.0倍以上を目指し、教育内容の充実とPR発信を行う。
4	生徒の実態に応じたより丁寧できめ細かな生徒指導・支援と活動意欲向上のための積極的な生徒支援。	B	安心安全を最優先した学校行事の開催と部活動の充実 地域と連携した校外ボランティア、協同活動の充実 基本的な生活習慣確立のための積極的な指導と、綿密な情報交換による丁寧な支援。	・コロナ感染対策の徹底 ・部活動加入生徒数前年度比増。 地域支援交流班、グローバルサポーターズの活動機会と内容の充実 ・アSEMBリーや日々の啓発等の予防的立での充実 ・遅刻・身だしなみ指導件数の前年度比減 ・ケース会議の効果的な実施	B B- A	学級閉鎖等があったが、粛々と安全対策は行えた。部活動については生徒、保護者とも一定の満足感を持って参加できている。 自主的な活動機会は、徐々に再会はできているが、まだ十分ではない。ポストコロナに向けての再ビルドアップが必要である。 ケース会議等必要に応じて、適切なタイミングで持て、確実な情報共有につながった。身だしなみを含め、適切な生活指導も展開できている。	生徒支援については、課題を抱える生徒について、個々の教員、学年、組織内での情報共有をより綿密に充実させたい。 自主活動についてコロナ明けに向け、活動計画を効果的に再構築していく必要がある。

## 学校関係者評価（3月4日実施）

- 生徒、教育活動について
  - ・国際交流科の特色ある活動をもっと外部に向けて発表（アピール）し、多くの方に知っていただける機会を作っていたきたい。
  - ・コロナ禍が収まりつつある中で、少しずつ生徒の顔が見える活動を期待している。
  - ・学校評価の結果から、教育目標、生徒・進路指導、授業内容、学校行事など多数の項目において概ね良好な結果であり、生徒は自己の活動や進路指導に対し、満足していると考えられるが、これは先生方が生徒個々に対し、丁寧な対応をしている結果の表れであろう。
  - ・ホームルーム活動や他の学校にない特色の面では、肯定的な考えを示していない生徒が見受けられることから、集団での取り組みに対しては少し工夫を加えることや生徒への十分な説明等の必要がある。
  - ・アフターコロナとして再出発する前に、従前の考え方を踏襲するだけでなく、新たな視点でそれぞれの活動に対する考えを再度整理していただくことが重要と思われる。
- 教員、学校組織、学校運営
  - ・お目にかかる先生方はどの方も優しく対応してくれるし、生徒達にも丁寧な説明をされているように思う。
  - ・コロナの影響ですぐには難しいと思うが、近隣の小学校との交流や地域（自治会等）の人々との交流などを通して高校生活の幅を広げてほしい。
  - ・国際交流を一層活発にすることが重要。どのような視点を重視して（異文化理解ととらえるか、進路保障の一端とするか、語学力向上に目を向けるか、コミュニケーション力の養成に重点を置くかなど）活発化させるか教員間で十分意思疎通を図ることが大切である。
  - ・生徒の個々の様々な要求に応えるべく、教員組織として、分掌や教科で役割を明確にし、全教員がなんらかの担当を持ちつつ、教員自身が生徒とともに新しい事柄にチャレンジし、達成感を得ることが大切である。
- その他
  - ・文化祭や体育祭で地域住民も見学できる機会があれば、ぜひお知らせ願いたい。
  - ・コロナ拡大以前に行われていた行事や諸活動を様々な観点から検討し、視点を変えて取り組むもの、取りやめるもの、復活させるものなど検討することも大切である。